専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	担任	
科目名	総合演習1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1
総授業数（予定）	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。

◆概要　クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画　等

3．履修上の注意

出席時間数等は授業内で指示します。

4．使用教材（テキスト等）

学生の手引き等

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
出席時間、取り組みにより評価

6．その他

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプラニング1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	MIT普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	希望する業種・職種で職を得るために、効果的で適正な就職活動を行うべく、実務的な準備（履歴書作成など）とキャリア教育（各種自己分析など）を通じて実践的なレベルを目指す。
◆概要	自己分析を通じて自分のゴールを再度確認する。履歴書は自らの歴史と自分自身をPRするものなので、広義のとなる。また、実際の就職活動により密着した自己PRや仮の志望動機も作成してみる。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	「キャリア」とは、2年間の心構え、卒業生の内定先・就活について、「振り返り」
第2週	ライフライン分析とキャリアパス
第3週	「職業興味と職業適性」
第4週	履歴書作成①　履歴書とは、履歴書左側を記入・作成
第5週	履歴書作成②　履歴書右側を記入・作成 「ジョハリの窓」
第6週	履歴書作成③ 「エゴグラム」 自己PR作成
第7週	履歴書作成④ 「能力と適性」 自己PR作成
第8週	履歴書作成⑤ 「良いところさがし」 自己PR作成
第9週	中間テスト　作文
第10週	企業研究①こんな仕事をしてみたい、雇用条件は
第11週	企業研究②（求人票を使って）求められる人材とは
第12週	履歴書作成⑥　仮志望動機の作成
第13週	履歴書作成⑦　仮志望動機の作成
第14週	履歴書作成⑦　仮志望動機の作成
第15週	一般教養とSPI
第16週	一般教養とSPI
第17週	期末テスト　履歴書の作成

3. 履修上の注意
筆記用具を持参
4. 使用教材（テキスト等）
プリント教材
5. 単位認定評価方法
評価基準：絶対評価OR相対評価 絶対評価で中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容
6. その他

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小山	
科目名	生命倫理・動物福祉		必修・選択（注記）	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　動物愛護や動物福祉（アニマルウェルフェア）、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶことで、動物に関わる際の福祉を重視した基礎的な概念を構築する。

◆概要　生命倫理、動物愛護、動物福祉、動物の権利について、またその違いについて。動物福祉の基礎となる5R、3Rを理解するにあたり、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物等、日常に関わる愛玩動物以外の動物の福祉についても学ぶ。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	生命倫理の概念
第2週	生命倫理と獣医療の関わり
第3週	動物福祉の定義と実際
第4週	動物福祉の定義と実際
第5週	動物愛護と動物福祉　:世界と日本の始まりから近代への愛護運動の歴史と現代における動物愛護の思想と課題
第6週	動物の福祉と動物の権利
第7週	五つの自由について
第8週	中間試験
第9週	愛玩動物の福祉　：　国内外の動物保護の活動と実情
第10週	愛玩動物の福祉　：　殺処分やネグレクト、結果としてのホーダー等の虐待について　生命倫理、愛護、福祉の思想を交え実情と課題について理解し考察する
第11週	愛玩動物の福祉　:適正飼養と福祉上の問題と対策
第12週	災害時の動物福祉
第13週	産業動物の福祉　5Rの原則
第14週	実験動物の福祉　3Rの原則
第15週	展示動物の福祉　環境エンリッチメント
第16週	動物福祉の行動学的指標と生理学的指標 まとめ
第17週	期末試験

3．履修上の注意

ペットライフケア学科１年生と動物看護師学科１年生の合同授業

4．使用教材（テキスト等）

パワーポイント資料

5．単位認定評価方法

評価基準:相対評価
出欠席数　10%　試験点数70%　授業態度(積極性等)10%　課題提出状況等10%
をもって評価とする。

6. その他

動物病院における、来院動物、入院動物に対する福祉を実践してきた経験や震災後の動物保護シェルターでのボランティア活動等の経験を活かし、福祉や愛護、動物との共生について授業を行う

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	本橋　知果	
科目名	愛玩動物学1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要	
◆到達目標	代表的な犬、猫の歴史と品種を知り、その活用について理解する。また、動物福祉をふまえた飼育管理法の習得、健康診断の内容、目的を理解することで、動物の健康保持・増進を補助する知識を養う。また、愛玩動物飼養管理士2級の取得を目指す。
◆概要	犬猫の品種や習性を理解した上で、日々の適切な飼育管理、安全な散歩・運動、基本的グルーミング、被毛の手入れ、口腔内衛生管理、健康診断の内容や目的等。

2．授業内容　（週単位で記入）	
第1週	愛玩動物飼養管理総論　伴侶動物の定義 終生飼養について
第2週	伴侶動物の種類と歴史
第3週	犬の歴史と品種　身体的特徴
第4週	
第5週	犬の飼養管理　健康管理・適した住環境・人との関わり・使役犬
第6週	
第7週	
第8週	
第9週	中間試験
第10週	猫の歴史と品種、身体的・生態的特徴
第11週	
第12週	猫の飼養管理　　健康管理・適した住環境・人との関わり
第13週	
第14週	
第15週	
第16週	血統書について

第17週	期末試験

3. 履修上の注意

教科書だけではなくその他資料を使いながら行っていく
グループワークなども検討しているためグループでは積極的に動くこと
課題等の提出もあるため事後学習を行いきちんと提出すること

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物飼養管理士2級テキスト
予備資料

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

・出席状況10%　・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
・中間・期末試験70%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験者
動物病院での経験を活かし、教科書の知識だけではなく飼い主様への適切な飼育の説明ができるようになるなど知識を詰め込むだけでなく実際の現場をイメージした授業を展開していく

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村　理恵子	
科目名	犬種概論		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	犬種標準（スタンダード）のサイズ・重要な比率・一般外貌・沿革・特長・性格・被毛・毛色・各部の特徴・歩様について学び知見を深める。
◆概要	犬種標準を基にトリミングを行うため、最新犬種図鑑163犬種掲載の中から、シザーリング犬種・スイニング犬種・プラッキング犬種および頻繁に取り扱う犬種に焦点をおき、犬種の特徴や美観をトリミングに活かすことができる。 また、性格・被毛・歩様などから健康状態を把握することもできるため、犬を適切に扱うことができる。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	犬種標準学概論 犬種どれだけ知ってる？ケネルクラブとスタンダード、血統書、
第2週	犬種 用途、ルーツ、グループ分け（第1～第10グループ）
第3週	ドッグショー 歴史、年齢区分、審査基準、流れ
第4週	第1グループ　ボーダー・コリー／シェットランド・シープドッグ／コーギー 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第5週	第2グループ　バーニーズ・マウンテン・ドッグ／グレート・ピレニーズ／ミニチュア・シュナウザー 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第6週	第3グループ　ジャック・ラッセル・テリア／ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア ヨークシャ・テリア 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第7週	第4グループ　ダックスフンド 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第8週	中間試験
第9週	第5グループ　日本犬（秋田・北海道・甲斐・紀州・四国・柴）　日本保存会について ポメラニアン／シベリアン・ハスキー 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第10週	第6グループ　ビーグル／ダルメシアン 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第11週	第7グループ　イングリッシュ・ポインター／アイリッシュ・セター／ワイマラナー 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第12週	第8グループ　アメリカン・コッカー・スパニエル／イングリッシュ・コッカー・スパニエル イングリッシュ・スプリンガー・スパニエル 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第13週	第8グループ　ゴールデン・レトリーバー/ラブラドール・レトリーバー 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第14週	第9グループ　ビション・フリーゼ／プードル／マルチーズ 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第15週	第9グループ　キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル／フレンチ・ブルドッグ/シー・ズー 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第16週	第10グループ　ボルゾイ／アイリッシュ・ウルフハウンド／デザイン・ドッグについて 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴

第17週	期末試験

3. 履修上の注意

確認小テスト等で理解度を確かめながら進める。

4. 使用教材(テキスト等)

最新犬種図鑑(写真で見る犬種とスタンダード)

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

・出席による評価　10%　・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%

・中間・期末試験　70%

6. その他

講師:JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬は人によって作出された動物であり、現代社会においてのメリット/デメリットについても指導する。

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	得地	
科目名	動物関連法規		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	各法律と動物取扱業との関わりについて理解したうえで、公益社団法人日本愛玩動物協会主催の愛玩動物飼養管理士検定試験2級に合格する。 法律を通して人と動物の共生のために必要な配慮と行動を具体的に理解する。
◆概要	動物や動物取扱業に関連するさまざまな法規について学ぶことで、動物取扱業者としての心得や人と動物の共生の在り方を理解する。 実際に法律が適用される場面等を紹介することで、法律を身近なものとして捉えられるようにする。 実在する法律について学ぶ前に、動物関連の法としてどのような決まりが必要だと思うかを考え、自ら学べる場を作る。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	動物医療関連法規オリエンテーション テキストの確認、学習内容の確認、法律の概要
第2週	法律概論 法の体系について、制定と改廃のしくみ
第3週	動物の愛護及び管理に関する法律① 目的、基本原則、動物愛護週間、基本指針、動物の所有者・占有者の責務、 飼養保管基準、第一種・第二種動物取扱業、動物販売業者、特定動物、 犬猫の引取りと負傷動物、繁殖制限、動物愛護週間、虐待と罰則　等
第4週	
第5週	
第6週	
第7週	
第8週	
第9週	前期中間試験
第10週	愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律/狂犬病予防法 目的、定義、規制/目的、対象動物、検疫、罰則
第11週	身体障害者補助犬法 目的、定義、補助犬の同伴
第12週	野生動物等に関する法律および条約 外来生物法、ワシントン条約、種の保存法、鳥獣保護管理法、ラムサール条約、 自然公園法、文化財保護法　等
第13週	
第14週	
第15週	
第16週	

第17週	前期期末試験

3. 履修上の注意

教科書と資料を併用し、愛玩動物飼養管理士2級に頻出される法律を中心的に進めていく。
過去に起きた裁判の事例などを紹介しながら興味を持たせる。
定期的に確認小テストを行う。

4. 使用教材(テキスト等)

愛がん動物飼養管理士2級教本・課題問題集
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価
・出欠席数10%、 試験点数70%、 授業態度(積極性、課題提出)20%

6. その他

動物病院勤務時における法律遵守の徹底や、飼い主様への説明・指導の経験を活かし授業を行う。

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	福澤	
科目名	動物健康管理学1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　犬の健康上の異常にいち早く気づき、適切な対応ができるための身体検査の知識と手技を習得する。また健康管理の上で必須の衛生管理・予防獣医学の知識をつけ、犬や猫のQOLの向上に貢献できるようになる。

◆概要　犬の疾病、消毒法や感染予防、健康管理について、ライフステージ別および部位別の特徴や注意すべき点を学ぶ。人獣共通感染症および、犬猫の主な感染症について学ぶ。
ワクチンや予防獣医療等、健康管理に必要な知識を身につける。緊急時対応（災害時含む）、グリーフケア等、動物の疾病や飼い主の心のケアに関わる基本的な重要事項について学ぶ

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	身体検査概論 トリミング前に確認したい全身チェックと移る病気
第2週	
第3週	
第4週	トリマーの必須知識(シャンプー、薬浴、ワクチン等)
第5週	
第6週	
第7週	中間試験
第8週	動物疾病学概論
第9週	動物疾病学概論
第10週	動物疾病学概論
第11週	動物疾病学概論
第12週	動物疾病学各論
第13週	動物疾病学各論
第14週	動物疾病学各論
第15週	動物疾病学各論
第16週	動物疾病学各論
第17週	期末試験

3．履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う事

4．使用教材（テキスト等）

早期発見わかる犬の病気　補助プリント

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度（積極性等）10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う。

6．その他

講師：動物病院（小動物診療）における動物看護師としての実務経験を生かし、動物の健康状態の把握とトリミング中に配慮すべき事項、様々な病態における対応について指導する。

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	福澤	
科目名	動物行動学1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。 犬と猫の発生起源、進化の過程、種類による特徴、行動学的特徴を知り、また基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、飼い主への指導に活かす。また、正しいハンドリングに必要な学習理論を理解する。
◆概要	ヒトと動物のコミュニケーションは、ほとんどが行動を介して行われるため、動物行動を的確に理解し、ヒトと動物の間の絆としての役割を持つ必要がある。動物業界の従事者が動物行動学を学ぶことは、動物の身体および心の健康の保持に寄与する。動物福祉の基本原則『5つの自由』に関連する動物行動学の基礎と応用を適切に学び、専門職として求められる知識を身につける。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	動物行動学基礎　　行動学とは　　行動学の歴史 4つの問い（適応・進化・機構・発達） 生得的行動・習得的行動 脳による行動制御
第2週	
第3週	
第4週	
第5週	神経伝達物質
第6週	犬種、描種による行動変化・行動特性
第7週	
第8週	
第9週	個体維持行動　社会維持行動　生殖行動 ストレスサイン　5つのF
第10週	
第11週	犬・猫のコミュニケーション
第12週	
第13週	発達行動学　（新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期）および社会化
第14週	
第15週	
第16週	
第17週	期末試験

3．履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う
授業内でデータ整理、発表を行うためワード（エクセル）、パワーポイントのリテラシーが必要となる
グループでテーマ検討・発表をする場合もある
事前学習として授業外に課題の提出を課すことがある
課題は提出期限を守ること

4．使用教材（テキスト等）

愛玩動物飼養管理士2級教本
補助プリント

5．単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

・出席による評価　15%　・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)　15%

・課題発表(中間・期末)　70%

6. その他

講師:動物病院で動物看護師として、またパピークラスやカウンセリングを実施した経験から、主に犬猫の行動様式、行動の種類とその理由、犬猫の発達、行動学に基づいたトレーニングの必要性などについて指導する。

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林	
科目名	動物美容学1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	グルーマーとしての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。
◆概要	グルーミングの必要性と目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	グルーミングの必要性と目的、グルーマー(トリマー)としての心構え
第2週	グルーミングの流れ・犬の扱いについて・犬の保定と安全管理
第3週	ネイルケア、イヤケア、クリッピング（下腹部、足裏、肛門周囲）
第4週	
第5週	グルーミング用語・スタイルの取り方・リボンの作り方
第6週	犬体名称・骨格名称
第7週	犬の皮膚と被毛
第8週	トリミング犬種とグルーミング犬種について
第9週	中間試験
第10週	グルーミング犬種（各部分カット）
第11週	歩様と骨格
第12週	
第13週	
第14週	道具について
第15週	
第16週	パピー、シニアのグルーミング
第17週	期末試験

3．履修上の注意

講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。

4．使用教材（テキスト等）

ドッグ・グルーマーズ　プロフェッショナル・ワークブック
ドッググルーミングブック
補助プリント

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・中間・期末試験　70%

6．その他

講師：JAHTAが認定するDGS（ドッググルーミングスペシャリスト）として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村	
科目名	総合実習1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	実習における自身の課題の追求、動物業界に貢献し得る実習や研究を通し、業界就職に役立つ知識、技術を身につける。
◆概要	実習と動物美容学での補足に加え、各個人の目的達成のための細かな学習を行う。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	実習の流れ説明（マニュアル読み合わせ）、ペン字
第2週	電話対応、ペン字、道具の使い方、保定法、
第3週	ベイジング、ドライング方法（目的　手順　注意点）、ドッグショーについて
第4週	リボンの作り方、水槽掃除の仕方
第5週	問題犬？の扱い方
第6週	
第7週	シャンプーについて
第8週	グルーマーが知っておくべき疾患
第9週	中間試験
第10週	各自検定の学習
第11週	
第12週	
第13週	
第14週	
第15週	
第16週	
第17週	期末試験

3．履修上の注意

講義中の内容、を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。

4．使用教材（テキスト等）

ドッグ・グルーマーズ　プロフェッショナル・ワークブック
ドッググルーミングブック
補助プリント

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・中間・期末試験　70%

6．その他

講師：JAHTAが認定するDGS（ドッググルーミングスペシャリスト）として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村　理恵子	
科目名	ハズバンダリー実習Ⅰ		必修・選択	必須	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	前期
企業連携科目	○	実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要	
◆到達目標	動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法を理解する。 日常生活で必要となるハンドリングやグルーミング時の対策・対応方法を身につける。
◆概要	犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、ボディーランゲージを読み取れるようになること。 QOL（生活の質）を上げるためのグッズや使用方法を学び、サロンやショップなどでお客様にアドバイスができるようになる。

2．授業内容　（週単位で記入）	
第1週	犬ってどんな動物　ハズバンダリートレーニングとは　その必要性は
第2週	犬のボディーランゲージを知ろう　犬の立場になって考える
第3週	犬具の選び方　リードの持ち方と扱い方　犬との接し方
第4週	年齢別（幼齢期・青年期・成犬期・老齢期）の接し方と扱い方
第5週	ハズバンダリートレーニング　①
第6週	ハズバンダリートレーニング　②
第7週	ハズバンダリートレーニング　③
第8週	中間試験
第9週	ハズバンダリートレーニング　④
第10週	ハズバンダリートレーニング　⑤
第11週	ハズバンダリートレーニング　⑥
第12週	基本トレーニング　①
第13週	基本トレーニング　②
第14週	基本トレーニング　③
第15週	基本トレーニング　④
第16週	基本トレーニング　⑤

第17週	期末試験

3. 履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材（テキスト等）

補助プリント筆記用具

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
出席状況、授業態度、中間・最終の知識、実技試験、課題提出状況およびその内容などを加味して評価する

6. その他

講師：JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村	
科目名	グルーミング実習基礎1		必修・選択	必修	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数（予定）	60コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	犬の扱い・道具の扱いの他、掃除や接客方法など、グルーミングに関するあらゆる重要な基礎の習得。
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、現場で必要となる接客（言葉遣い、立ち居振る舞い、身なり）に関する基礎を身に付ける。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	自己紹介・実習着配布・実習について心構え・身だしなみチェック・持ち物チェック・道具配布・実習資料の説明・草取り・道具の場所・掃除方法・GR室の使い方
第2週	ブラッシング練習（ウィッグ）・カルテの出し方・受付練習・各道具の使い方 ハサミの手入れ説明
第3週	ゲージの使い方・リードの付け方・受付練習
第4週	犬の抱き方・大型犬の扱い方・ブラッシング・爪切りの練習・受付練習
第5週	講師によるデモンストレーション・1日の流れ確認
第6週	学校犬で実習
第7週	グルーミング実習（BigPawお客様開始）
第8週	グルーミング実習
第9週	グルーミング実習 中間試験
第10週	グルーミング実習
第11週	グルーミング実習
第12週	グルーミング実習
第13週	グルーミング実習
第14週	グルーミング実習
第15週	グルーミング実習
第16週	グルーミング実習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。
実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価
・出席による評価　20%　・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
・技術的評価(接客・トリミング)　60%

6. その他

講師:トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。
講師:動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山崎・竹村	
科目名	動物美容実習基礎1		必修・選択	選択	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数（予定）	60コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要	
◆到達目標	グルーミングの基本作業をマスターし、トリミングでの全身カットの基礎知識習得を計る。
◆概要	グルーミング実習1で学んだ基礎知識をトリミングに活かしながら様々な犬種の全身カットの基礎知識を学ぶ。

2．授業内容 （週単位で記入）	
第1週	練習用マネキンの組み立て・ブラッシング・ライン描き・ハサミ練習・リボン付けの練習・片付けの仕方
第2週	練習用マネキンのブラッシング・ライン描き・ハサミ練習・リボン付けの練習・飼育管理（水槽） 受付練習
第3週	練習用マネキンでハサミの練習・ライン描き・電話対応・受付練習・リボン作り
第4週	シャンプー練習・ドライ練習・カット練習・受付練習・リボン作り
第5週	講師によるデモンストレーション・１日の流れ確認 学校犬で実習
第6週	学校犬で実習
第7週	トリミング実習（BigPawお客様開始）
第8週	トリミング実習 中間試験
第9週	トリミング実習
第10週	トリミング実習
第11週	トリミング実習
第12週	トリミング実習
第13週	トリミング実習
第14週	トリミング実習
第15週	トリミング実習
第16週	トリミング実習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。
実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4. 使用教材(テキスト等)

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価
・出席による評価　20%　・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
・技術的評価(接客・トリミング)　60%

6. その他

講師:JAHTAが認定するDGS(ドッググルーミングスペシャリスト)として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

学科コード	U1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村 福澤	
科目名	ドッグトレーニング基礎1		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	34コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要	
◆到達目標	犬と飼い主の理想的な関係構築のため、犬のトレーニングに必要な学習理論の理解、正の強化と負の強化を使ったトレーニング方法を理解し、実行できるようになる。 また、犬と関わる上で必要な事や必要な物を理解するとともに、犬を取り巻く環境について適切にコントロールできるようになる。
◆概要	犬のトレーニングの知識習得および実技を行う 実際の道具やデモンストレーションを見たり、実践したりする

2．授業内容 （週単位で記入）	
第1週	しつけ学　犬の観察の必要性と重要性　問題行動とは 実習中の犬の管理法　必要な用具　カウンセリングシート記入
第2週	より良い共同生活のために　犬の欲求を満たす 理想的な犬との関係　リーダー　アルファ　上下関係　主従関係　親子関係
第3週	犬のトレーニング法　強制法　陽性強化法　強化子
第4週	犬具紹介　慣らし方　リードワーク（持ち方　テンション）　報酬の使い方
第5週	人の“手”の持つ意味　イメージ　マズルコントロール　アルファロール ハンドフィーディング　コング　ほめ方
第6週	トレーニング理論　古典的条件付け　声　クリッカー 遊びの重要性　遊び方
第7週	トレーニング理論　古典的条件付け　声　クリッカー 遊びの重要性　遊び方
第8週	トレーニング理論　オペラント　連続強化 誘導　グーの手についてくる　マグネット　おいで
第9週	トレーニング理論　オペラント　連続強化 誘導とターゲットタッチ　おいで
第10週	トレーニング理論　オペラント　部分強化 おすわり　誘導　ハンドシグナル
第11週	トレーニング理論　オペラント　復習 おすわり　ハンドシグナル　つぎ込み
第12週	トレーニング理論　オペラント　復習 おすわり　声符
第13週	しつけに必要な理論　馴化　鋭敏化　脱感作　般化・・・） おすわり　ふせ　たて　様々な姿勢からの誘導
第14週	しつけに必要な理論　馴化　鋭敏化　脱感作　般化・・・） おすわり　ふせ　たて　様々な姿勢からの誘導
第15週	犬のストレス　ボディランゲージ　カーミングシグナル　転位行動　転嫁行動 ふせ・たて　誘導⇒ハンドシグナル⇒声符　部分強化
第16週	犬のストレス　ボディランゲージ　カーミングシグナル　転位行動　転嫁行動 ふせ・たて　誘導⇒ハンドシグナル⇒声符　部分強化

第17週	期末試験

3. 履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材（テキスト等）

犬のしつけ学
配布資料

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30%

・中間・期末試験　60%

6. その他

講師：JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

学科コード	U1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村 福澤	
科目名	ドッグトレーニング基礎2		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	34コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　犬と飼い主の理想的な関係構築のため、犬のトレーニングに必要な学習理論の理解、正の強化と負の強化を使ったトレーニング方法を理解し、実行できるようになる。
また、犬と関わる上で必要な事や必要な物を理解するとともに、犬を取り巻く環境について適切にコントロールできるようになる。

◆概要　犬のトレーニングの知識習得および実技を行う
実際の道具やデモンストレーションを見たり、実践したりする

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	犬のコミュニケーション 前期実技復習
第2週	犬のコミュニケーション までをつける
第3週	クレートトレーニング 様々な姿勢でのまつ
第4週	クレートトレーニング 様々な姿勢でのまつ　椅子取りゲーム
第5週	トイレトレーニング 様々な姿勢でまつ　犬から離れる
第6週	トイレトレーニング 様々な姿勢でまつ　犬から離れる
第7週	中間試験
第8週	ﾊﾟﾋﾟｰﾄレーニング　甘噛みへの対処 飼主の左についてあるく（右も）　おすわりやふせを組み合わせたトレーニング
第9週	ﾊﾟﾋﾟｰﾄレーニング　甘噛みへの対処 飼主の左についてあるく（右も）　おすわりやふせを組み合わせたトレーニング
第10週	飼主の体勢を変えた基本トレーニング イスに座った飼い主の足元で落ち着く　座った飼い主の指示でおすわり　ふせ　たって
第11週	飼主の体勢を変えた基本トレーニング イスに座った飼い主の足元で落ち着く　座った飼い主の指示でおすわり　ふせ　たって
第12週	犬と暮らす前に考えること 各自、誘導で様々な動きを教えるために必要なステップを検討し実践（お手　スピンなど）
第13週	犬と暮らす前に考える事 各自、誘導で様々な動きを教えるために必要なステップを検討し実践（お手　スピンなど）
第14週	発達行動学 体をさわる　はみがき 各自、誘導で様々な動きを教えるために必要なステップを検討し実践（お手　スピンなど）
第15週	発達行動学 体をさわる　はみがき
第16週	後期復習

第17週	期末試験

3. 履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材（テキスト等）

犬のしつけ学
配布資料

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30%

・中間・期末試験　60%

6. その他

講師：JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	堀内　貴彦	
科目名	情報リテラシー1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　タッチタイピングおよびWindows操作が仕事に支障ない程度にできる
パソコンの基本的なトラブルシューティングができる
マイクロソフトWORDでビジネス文書の作成ができる
日本情報処理検定協会主催の「ワープロ検定3級」および「文書デザイン検定3級」以上の検定合格を目標とする

◆概要　ワープロ検定および文書デザイン検定の問題を解きながら、タイピングの基礎、Windows操作、Wordによる文書作成および基本的なトラブルシューティングを習得する。7月および10月に個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	タッチタイピングの基本および日本語文章入力 Windows、Wordの基本操作およびトラブルシューティング
第2週	プリンターの設定
第3週	ワープロ検定3級程度の問題解法 個別問題演習
第4週	ワープロ検定準2級・2級程度の問題解法 個別問題演習
第5週	ワープロ検定準1級・1級程度の問題解法 個別問題演習
第6週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第7週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第8週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第9週	中間試験 ワープロ検定準2級程度の問題
第10週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第11週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第12週	問題演習およびワープロ検定
第13週	文書デザイン検定3級および2級程度の問題解法 個別問題演習
第14週	文書デザイン検定2級程度の問題解法 個別問題演習

第15週	文書デザイン検定2級程度の問題解法 個別問題演習
第16週	文書デザイン検定1級程度の問題解法 個別問題演習
第17週	期末試験 文書デザイン検定2級程度の問題

3. 履修上の注意

授業課題の提出あり(MITファイルサーバへ)
欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する。
課題が期日までに出せない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。
授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。

4. 使用教材(テキスト等)

マイクロソフトWord
授業配布プリント
検定過去問題のプリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価
授業態度20%、中間・期末試験50%、課題・小テスト30%

ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。

6. その他

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプラニング２		必修・選択	必修	
単位数	１単位	授業形態	講義	年次	１年
総授業数（予定）	１７コマ	授業場所	MIT普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

１．授業の到達目的と概要

◆到達目標　キャリアプラニング１をベースに、就職活動をより円滑に進めるための実務の実践的レベルを目指す。

◆概要　面接と電話応対を中心に、求人票の見方や企業情報の収集にも力を入れる。送付状や封筒の記入など実践直前の内容となる。

２．授業内容　（週単位で記入）

第1週	ビジネスマナーと面接について
第2週	面接練習①
第3週	面接練習②
第4週	面接練習③
第5週	電話応対①
第6週	電話応対②
第7週	電話応対③
第8週	リクナビを活用した就活講座
第9週	中間テスト　一般教養とSPI
第10週	リクルートスタイル講習会
第11週	就活用写真撮影
第12週	企業情報収集とビジネスマナー
第13週	就職ラリー準備
第14週	送付状、お礼状、封筒の記入①
第15週	送付状、お礼状、封筒の記入②
第16週	求職票の作成
第17週	期末テスト　求職票の作成（清書）

３．履修上の注意

筆記用具を持参

４．使用教材（テキスト等）

プリント教材

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価OR相対評価

絶対評価で中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容

6. その他

「リクナビ登録・就活講座」、「リクルートスタイル講習会」、「就活写真撮影」は外部との調整上、スケジュールが前後したり、その影響で他のスケジュールが動く場合があります。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	山﨑　竹村	
科目名	動物健康管理学2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

１．授業の到達目的と概要

◆到達目標	愛玩動物飼養管理士試験２級の合格を目指す。その後、飼い主様に相談されることも多い、適正な食事内容、フードの与え方、肥満の予防など栄養に関する飼育管理についての知識をつける。
◆概要	愛玩動物飼養管理士２級の受験終了までは愛玩動物飼養管理士試験対策を念頭に入れた飼養管理と栄養学を学ぶ。成長段階に合わせた適正な食事、フードに関する知識、必須の栄養素、肥満予防について栄養学の基礎を学ぶ。

２．授業内容　（週単位で記入）

第1週	うさぎ・チンチラの飼養管理
第2週	フェレット・ハムスターの飼養管理
第3週	鳥類の飼養管理（インコ・オウム・フィンチ系など）
第4週	爬虫類の飼養管理
第5週	愛玩動物飼養管理士試験対策（課題報告問題解きなおし&解説）※１～４週で学習した範囲を主に行う
第6週	
第7週	中間試験
第8週	栄養学総論　　動物における栄養の重要性と栄養の概念
第9週	５大栄養素　　３大栄養素　食べるべきもの（動物種ごとの必須栄養素）
第10週	
第11週	６大栄養素　　ビタミン・ミネラル・水　食べるべきもの（動物種ごとの必須栄養素）
第12週	
第13週	フードの選び方・与え方　　フードの種類・成長段階
第14週	
第15週	フードの選び方・与え方　　ＢＣＳ・カロリー計算・給与量の計算
第16週	食べてはいけない物　　動物の体に害をなす成分
第17週	期末試験

３．履修上の注意

教科書と資料を併用し、愛玩動物飼養管理士の試験に出題されやすいポイントを主に取り扱っていく。

４．使用教材（テキスト等）

愛玩動物飼養管理士２級テキスト
パワーポイント資料

５．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度（積極性等）10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う

６．その他

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	福澤	
科目名	動物健康管理学3		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　犬の健康上の異常にいち早く気づき、適切な対応ができるための身体検査の知識と手技を習得する。また健康管理の上で必須の衛生管理・予防獣医学の知識をつけ、犬や猫のQOLの向上に貢献できるようになる。

◆概要　犬の疾病、消毒法や感染予防、健康管理について、ライフステージ別および部位別の特徴や注意すべき点を学ぶ。人獣共通感染症および、犬猫の主な感染症について学ぶ。
ワクチンや予防獣医療等、健康管理に必要な知識を身につける。緊急時対応（災害時含む）、グリーフケア等、動物の疾病や飼い主の心のケアに関わる基本的な重要事項について学ぶ

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	動物疾病学各論
第2週	動物疾病学各論
第3週	動物疾病学各論
第4週	動物疾病学各論
第5週	動物疾病学各論
第6週	動物疾病学各論
第7週	中間試験
第8週	動物疾病学各論
第9週	動物疾病学各論
第10週	動物疾病学各論
第11週	動物疾病学各論
第12週	動物疾病学各論
第13週	動物疾病学各論
第14週	動物疾病学各論
第15週	動物疾病学各論
第16週	動物疾病学各論
第17週	期末試験

3．履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う事

4．使用教材（テキスト等）

早期発見わかる犬の病気　補助プリント

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度（積極性等）10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う。

6．その他

講師：動物病院（小動物診療）における動物看護師としての実務経験を生かし、動物の健康状態の把握とトリミング中に配慮すべき事項、様々な病態における対応について指導する。

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	本橋 知果	
科目名	愛玩動物学2		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	近年増加しつつあるコンパニオンアニマルとして飼育されている小鳥、ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレットの他、大型インコ類や猛禽類、爬虫類、両生類の生態や飼育方法を学び、その種本来の習性に則した飼育方法の習得を目指す。また、飼い主に対し、適切な飼養指導が行える知識を養い、実践で発揮できることを目標とする
◆概要	伴侶動物の歴史、品種、飼育管理法、エキゾチック動物の生態について理解する。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	ウサギ 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法 代表的な疾患
第2週	
第3週	ハムスター 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法 代表的な疾患
第4週	
第5週	フェレット 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法 代表的な疾患
第6週	
第7週	モルモット 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法、代表的な疾患
第8週	
第9週	中間試験
第10週	チンチラ 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法、代表的な疾患
第11週	
第12週	インコ・オウム類とフィンチ類 生態と習性、一般的な飼育方法 インコ・オウム類とフィンチ類の違い 生理学的データ 代表的な疾患
第13週	
第14週	
第15週	爬虫類(カメ・トカゲ・ヘビ) 生体と習性、一般的な飼育方法
第16週	
第17週	期末試験

3．履修上の注意

愛玩動物飼養管理士2級で頻出されるエキゾチックアニマルの問題に
関連する範囲を中心的に行っていく。事後学習を怠らないよう心がけること

4．使用教材（テキスト等）

愛玩動物飼養管理士２級テキスト
予備資料

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席状況10%　・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
・中間・期末試験70%

6. その他

講師：動物病院での動物看護師としての実務経験者
動物病院での経験を活かし、教科書の知識だけではなく飼い主様への適切な飼育の説明ができるようになるなど知識を詰め込むだけでなく実際の現場をイメージした授業を展開していく

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	腰原	
科目名	動物業界演習		必修・選択	必須	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	○	実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	・生体を扱う上で形態的に最低限必要な知識を身に着ける。 ・犬を中心とした、細胞・組織・各臓器の形態や機能を理解する。 ・遺伝の仕組みや免疫の仕組みを理解する。
◆概要	動物の生命維持の仕組みを学び、生命体としての動物を細胞・組織・臓器レベルの各階層で理解する。 人間や他の動物と比較しながら動物の形態等を学ぶ。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	動物業界演習総論授業について・ペットトリミングと獣医
第2週	動物病院ってどんなところ？
第3週	体が動く仕組み　骨どうして犬は大の字で寝れないの？
第4週	体が動く仕組み　筋肉ボディービルダー犬がいるってホント？
第5週	細胞が体を作る仕組み　細胞と組織体を作る細胞の数は○○○個！
第6週	体を覆うもの仕組み　上皮と表皮体を覆うミクロの世界
第7週	体中に血液を送る仕組み　循環器ドリンは超！高血圧、脳出血で死なないワケ
第8週	体を中を流れる液体の仕組み　体液液体中を流れるたくさんの戦士
第9週	尿を作る仕組み　泌尿器血液から尿への華麗なる変身
第10週	体を正常に保つ仕組み　脳と神経体中をめぐるリニアモーターカー、秒速○○○ｍ！
第11週	中間試験
第12週	体を正常に保つ仕組み　ホルモン恋心も貧血もホルモンの操作されている！
第13週	体に酸素を取り込む仕組み　呼吸器鳥の肺は１１個ある？
第14週	物を食べる仕組み　消化器逆立ちしても物は飲み込める？
第15週	物を感じる仕組み　感覚器ヌはどうして真っ暗でもぶつからないの？
第16週	子供を作る仕組み　生殖器タはどうして２０匹も妊娠できるのか

第17週	期末試験

3. 履修上の注意

・授業では図などの板書が多い為、イラストを描きやすいノートを用意する事。

4. 使用教材(テキスト等)

パワーポイント

5. 単位認定評価方法

評価基準:相対評価

出席状況、授業態度、中間・期末試験結果を総合して評価する

6. その他

講師:獣医師として産業動物および小動物の臨床に従事している経験を生かし、動物を取り扱うものが習得しておくべき形態機能学について指導する。

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林 和愛	
科目名	動物美容学2		必修・選択	必須	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	グルーマー（トリマー）としての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。
◆概要	グルーミングの必要性と目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	サロンの一日
第2週	プードルのペット・クリップとショークリップについて
第3週	
第4週	
第5週	シュナウザーについて
第6週	
第7週	
第8週	中間試験
第9週	Aコッカ―にいついて
第10週	各犬種のトリミングポイント
第11週	サロントリマー検定に向けて（マネキン使用）
第12週	
第13週	ベアカットについて
第14週	
第15週	サロントリマー検定について　概要説明　過去問題と解説
第16週	
第17週	サロントリマー検定2級 （筆記）

3．履修上の注意

講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。

4．使用教材（テキスト等）

ドッグ・グルーマーズ　プロフェッショナル・ワークブック
ドッググルーミングブック
補助プリント

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・中間・期末試験　70%

6．その他

講師：JAHTAが認定するDGS（ドッググルーミングスペシャリスト）として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村	
科目名	ハズバンダリー実習Ⅱ		必修・選択	必須	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法を理解する。 日常生活で必要となるハンドリングやグルーミング時の対策・対応方法を身につける。
◆概要	犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、ボディーランゲージを読み取れるようになること。 QOL（生活の質）を上げるためのグッズや使用方法を学び、サロンやショップなどでお客様にアドバイスができるようになる。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	ドッググッズの説明と使い方　①
第2週	ドッググッズの説明と使い方　②
第3週	習性を活かした遊びでQOLをあげよう　①
第4週	習性を活かした遊びでQOLをあげよう　②
第5週	応用トレーニング　①
第6週	応用トレーニング　②
第7週	応用トレーニング　③
第8週	応用トレーニング　④
第9週	応用トレーニング　⑤
第10週	中間試験
第11週	応用トレーニング　クリッカー ①
第12週	応用トレーニング　クリッカー ②
第13週	応用トレーニング　クリッカー ③
第14週	応用トレーニング　トリック　①
第15週	応用トレーニング　トリック　②
第16週	問題行動対策　まとめ

第17週	最終確認試験

3. 履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材（テキスト等）

補助プリント
筆記用具

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
出席状況、授業態度、中間・最終の知識、実技試験、課題提出状況およびその内容などを加味して評価する

6. その他

講師：JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山崎・竹村	
科目名	グルーミング実習基礎2		必修・選択	必修	
単位数	4単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数（予定）	60コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	家庭犬を扱う上での最低限の手入れ方法を実際に行い、飼主に適切なアドバイスができる。 また扱い方・感情の読み取りなどを養い、犬に負担のない保定、扱いができる。 一人で一頭を120分でグルーミングすることができる。道具を正しく扱うことができる。
◆概要	実際にお客様の会員犬のトリミングすることで、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	グルーミング実習
第2週	グルーミング実習
第3週	グルーミング実習
第4週	グルーミング実習
第5週	グルーミング実習
第6週	グルーミング実習
第7週	グルーミング実習
第8週	グルーミング実習
第9週	中間試験
第10週	グルーミング実習
第11週	グルーミング実習
第12週	グルーミング実習
第13週	グルーミング実習
第14週	グルーミング実習
第15週	グルーミング実習
第16週	グルーミング実習
第17週	サロントリマー2級資格試験 期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。
実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価
・出席による評価　20%　・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
・技術的評価(接客・トリミング)　60%

6. その他

講師:トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。
講師:動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村	
科目名	動物美容実習基礎2		必修・選択	選択	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数（予定）	60コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	グルーミングの基本作業をマスターし、トリミングでの全身カットの基礎知識習得を計る。
◆概要	グルーミング実習2で学んだ基礎知識をトリミングに活かしながら様々な犬種の全身カットの基礎知識を学ぶ。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	トリミング実習
第2週	トリミング実習
第3週	トリミング実習
第4週	トリミング実習
第5週	トリミング実習
第6週	トリミング実習
第7週	トリミング実習
第8週	トリミング実習
第9週	中間試験
第10週	トリミング実習
第11週	トリミング実習
第12週	トリミング実習
第13週	トリミング実習
第14週	トリミング実習
第15週	トリミング実習
第16週	トリミング実習
第17週	サロントリマー2級資格試験 期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。
実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法
評価基準:絶対評価 ・出席による評価　20%　・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(接客・トリミング)　60%
6. その他
講師:JAHTAが認定するDGS(ドッググルーミングスペシャリスト)として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

学科コード	U1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村 福澤	
科目名	ドッグトレーニング基礎3		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	34コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	犬と飼い主の理想的な関係構築のため、犬のトレーニングに必要な学習理論の理解、正の強化と負の強化を使ったトレーニング方法を理解し、実行できるようになる。 また、犬と関わる上で必要な事や必要な物を理解するとともに、犬を取り巻く環境について適切にコントロールできるようになる。 さらに飼い主へのトレーニング指導におけるインストラクションの基礎を身につける。
◆概要	犬のトレーニングの知識習得および実技を行う。 実際の道具やデモンストレーションを見たり、実践したりする。 JAHA家庭犬マナーチャレンジ受験に向け、担当犬に試験項目のトレーニングを実施する 飼い主への指導・しつけ方教室の運営を想定し、各トリックの説明・デモンストレーション・コーチング・インストラクションについて学び実践する。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	マナーチャレンジ試験項目のトレーニング
第2週	マナーチャレンジ試験項目のトレーニング
第3週	マナーチャレンジ試験項目のトレーニング
第4週	マナーチャレンジ試験項目のトレーニング
第5週	マナーチャレンジ試験項目のトレーニング
第6週	マナーチャレンジ試験項目のトレーニング
第7週	中間試験（JAHA家庭犬マナーチャレンジ受験の可能性）
第8週	マナーチャレンジ試験項目のトレーニング
第9週	マナーチャレンジ試験項目のトレーニング
第10週	マナーチャレンジ試験項目のトレーニング
第11週	マナーチャレンジ試験項目のトレーニング
第12週	インストラクションとコーチング 各自、誘導で様々な動きを教えるために必要なステップを検討し実践
第13週	インストラクションとコーチング 各自、誘導で様々な動きを教えるために必要なステップを検討し実践
第14週	インストラクションとコーチング 各自、誘導で様々な動きを教えるために必要なステップを検討し実践
第15週	インストラクションとコーチング 各自、誘導で様々な動きを教えるために必要なステップを検討し実践

第16週	インストラクションとコーチング 各自、誘導で様々な動きを教えるために必要なステップを検討し実践
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材（テキスト等）

犬のしつけ学
配布資料等

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30%

・中間・期末試験　60%

6. その他

講師：JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	山﨑・竹村	
科目名	総合実習2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数（予定）	15コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要	
◆到達目標	グルーミングの基本作業をマスターし、基礎知識習得を計る。
◆概要	グルーミング実習2で学んだ基礎知識を活かしながら、保定法・足周りカットの基礎知識を学ぶ。

2．授業内容 （週単位で記入）	
第1週	グルーミング実習
第2週	グルーミング実習
第3週	グルーミング実習
第4週	グルーミング実習
第5週	グルーミング実習
第6週	グルーミング実習
第7週	グルーミング実習
第8週	グルーミング実習
第9週	中間試験
第10週	グルーミング実習
第11週	グルーミング実習
第12週	グルーミング実習
第13週	グルーミング実習
第14週	グルーミング実習
第15週	グルーミング実習
第16週	グルーミング実習

第17週	期末試験

3. 履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。

4. 使用教材(テキスト等)

グルーミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価
・出席による評価　20%　・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
・技術的評価(接客・トリミング)　60%

6. その他

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス

学科コード	U1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	福澤 山﨑 竹村	
科目名	飼育実習1・2		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要	
◆到達目標	学校飼育動物の管理ができるようになる。
◆概要	学校飼育動物を管理することにより責任感と各動物の生態について学ぶ。

2．授業内容 （週単位で記入）	
第1週	学校飼育動物のお世話
第2週	学校飼育動物のお世話
第3週	学校飼育動物のお世話
第4週	学校飼育動物のお世話
第5週	学校飼育動物のお世話
第6週	学校飼育動物のお世話
第7週	学校飼育動物のお世話
第8週	学校飼育動物のお世話
第9週	中間試験
第10週	学校飼育動物のお世話
第11週	学校飼育動物のお世話
第12週	学校飼育動物のお世話
第13週	学校飼育動物のお世話
第14週	学校飼育動物のお世話
第15週	学校飼育動物のお世話
第16週	学校飼育動物のお世話

第17週	期末試験

3. 履修上の注意

毎回同じ人が同じ作業をやることがないよう、講師がしっかり見て必要であれば指示を出す。

4. 使用教材(テキスト等)

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価
・出席による評価　20%　・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
・技術的評価(動物に負担がかからない作業ができているか)　60%

6. その他

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	担任	
科目名	総合演習2		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2
総授業数（予定）	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。

◆概要　クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画　等

3．履修上の注意

出席時間数等は授業内で指示します。

4．使用教材（テキスト等）

学生の手引き等

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
出席時間、取り組みにより評価

6．その他

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科コード	U2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林和愛	
科目名	総合実習1・2		必修・選択	選択	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	動物の飼育・健康管理を責任を持って行うことができるようになる。また難しいとされる体調変化の見極めや、飼い主様から求められる飼育方法や衛生管理のアドバイスが出来るように技術を身に着ける。
◆概要	動物の飼育管理、世話に必要な様々な手技の習得、調査・研究もしくは現場の実習を行う。実習での習得技術内容および調査・探求・実験（製作の場合もある）結果についてデータ作成、パワーポイント作成。 内定先より提示された課題に取り組むこともある。現場で実習を行って課題を達成することも含む。 学校保有動物の飼育・健康管理等を通し、動物の飼育管理に必要な視点と一連の技術を身につける。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週 ～ 第17週	保有動物の世話

3．履修上の注意

生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと
外部での実習の際には、身だしなみ・立ち居振る舞いに十分に配慮すること

4．使用教材（テキスト等）

ノートパソコン

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　30%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）70%

6．その他

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	上條	
科目名	動物飼養管理学3		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標　グルーマー（トリマー）や、動物に関わる職業に携わる者として、今後関わる可能性のある基礎疾患（人獣共通感染症、部位別疾患）について理解する。それに伴い、必要となるシャンプー剤の選択や、飼い主へのアドバイス方法、トリミングトラブルにおける対処法を習得する。

◆概要　人獣共通感染症や部位別の症状、状態を把握し理解することで、自身を守るとともに、飼い主との信頼関係にもつなげる。また、実際のトリミングでのトラブルや対処法について学ぶ。

2. 授業内容　（週単位で記入）

第1週	全身チェック
第2週	人獣共通感染症 店内感染を起こす可能性のある病気
第3週	部位別疾患学 皮膚の病気
第4週	部位別疾患学 皮膚の病気
第5週	部位別疾患学 耳の病気
第6週	部位別疾患学 耳の病気
第7週	部位別疾患学 眼の病気
第8週	部位別疾患学 眼の病気
第9週	中間試験
第10週	部位別疾患学 眼の病気
第11週	部位別疾患学 鼻・口の病気
第12週	部位別疾患学 おしり・腹部の病気
第13週	部位別疾患学 足先・膝・腰回りの病気
第14週	部位別疾患学 足先・膝・腰回りの病気
第15週	トリミングトラブルについて
第16週	トリミングトラブルについて
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

事後学習を必ず行うこと。

4. 使用教材（テキスト等）

参考テキスト(わかる犬の病気)
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度 (積極性等) 10% 課題提出状況等 10%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験者
教科書に載っていることだけではなく現場での経験を活かした授業を展開していく。

学科コード	U2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林和愛	
科目名	飼育実習1・2		必修・選択	選択	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	動物の飼育・健康管理を責任を持って行うこと、また難しいとされる体調変化の見極めや、飼い主様から求められる飼育方法や衛生管理のアドバイスが出来るように技術を身に着ける。
◆概要	学校保有動物の飼育・健康管理を行い、日々の変化など記録していく。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週 ～ 第17週	保有動物の飼育管理

3．履修上の注意

動物福祉5つの自由を念頭に、大切に動物を飼育すること
動物の世話に適切な服装・実習靴等、安全に配慮すること

4．使用教材（テキスト等）

ノートパソコン　配布資料　記録用紙

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　20%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）60%
・課題発表　20%

6．その他

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプランニング３　就職教養		必修・選択	必修	
単位数	１単位	授業形態	講義	年次	２年
総授業数（予定）	１７コマ	授業場所	MIA普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標	本学入学の最大の目的である「希望する業種・職種で職に就く」こと、その後必要となる労働法と社会保険の基礎を学ぶ。
◆概要	１年次で学習したことを再度確認する。履歴書の改正、電話応対・面接の再練習、企業情報の提供など、目標到達のためのサポートを行う。労働条件等などに加えて、今注目の働き方についても考える。

2. 授業内容 （週単位で記入）

第1週	キャリアプラニング１、キャリアプラニング2を踏まえて、就活方法、企業・求人情報の確認
第2週	電話応対、面接を再確認、自己PR・志望動機確認
第3週	学生の就活とそのサポート、求人票の見方を確認、自己PR・志望動機確認
第4週	学生の就活とそのサポート、「働くこと」と労働者とは
第5週	学生の就活とそのサポート、労働者を保護する法律と労務契約
第6週	学生の就活とそのサポート、書面による労働条件
第7週	学生の就活とそのサポート、内定と内定取消
第8週	学生の就活とそのサポート、試用期間と就業規則
第9週	中間テスト　労働法と社会保険
第10週	学生の就活とそのサポート、労働時間、時間外労働、割増賃金
第11週	学生の就活とそのサポート、休日・休暇、有給休暇、休憩時間
第12週	学生の就活とそのサポート、賃金、最低賃金、退職金、賞与
第13週	学生の就活とそのサポート、社会保険①
第14週	学生と就活とそのサポート、社会保険②

第15週	学生の就活とそのサポート、産前産後休業、育児休業、介護休業
第16週	学生の就活とそのサポート、解雇、退職
第17週	期末テスト （課題）

3. 履修上の注意

筆記用具と就活手帳を持参

4．使用教材（テキスト等）

就活手帳、プリント教材

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価OR相対評価

絶対評価で中間・期末テスト（課題）、授業態度、出席状況

6．その他

A4用紙で作成し最大２ページまでとする。

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	山﨑	
科目名	動物飼養管理学4		必修・選択	選択	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　実習における自身の課題の追求、動物業界に貢献し得る実習や研究を通し、業界就職に役立つ知識、技術を身につける。

◆概要　グループワークでの知識習得、および研究テーマ等の決定、調査・探求・実験（製作の場合もある）。データ制作。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	実習・調査・研究
第2週	実習・調査・研究
第3週	実習・調査・研究
第4週	実習・調査・研究
第5週	実習・調査・研究
第6週	実習・調査・研究
第7週	実習・調査・研究
第8週	実習・調査・研究
第9週	実習・調査・研究
第10週	実習・調査・研究・データ制作
第11週	実習・調査・研究・データ制作
第12週	実習・調査・研究・データ制作
第13週	実習・調査・研究・データ制作
第14週	実習・調査・研究・データ制作
第15週	実習・調査・研究・データ制作
第16週	実習・調査・研究・データ制作
第17週	期末報告

3．履修上の注意

内容、進度により各自対応は異なる場合がある。

4．使用教材（テキスト等）

参考図書等　その他

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

出欠席数10%、授業態度（積極性等）10%、課題提出状況10%、研究成果50%、研究発表評価等20%
をもって評価とする。

6．その他

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小山	
科目名	動物人間関係学		必修・選択（注記）	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	２年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。
◆概要	人間と動物の関わり、日本と欧米の動物の関わりの相違、その背景や現状。使役動物の歴史と福祉。伴侶動物の現状と関わりや相互の影響について。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	人間と動物の関わり　　動物への関心の根拠と動物観
第2週	文学・芸術における動物との関係の歴史と日本人の動物観
第3週	動物観の歴史の変化と比較による 欧米と日本での動物の関わりの相違
第4週	動物介在介入：AAI　　動物介在活動
第5週	動物介在介入：AAI　　動物介在活動
第6週	動物介在介入：AAI　　動物介在療法
第7週	動物介在介入：AAI　　動物介在療法
第8週	中間試験
第9週	動物介在介入：AAI　　動物介在教育
第10週	動物介在介入：AAI　　動物介在教育
第11週	使役動物の歴史と福祉について
第12週	使役動物の歴史と福祉について
第13週	人のライフサイクルにおける動物の関わりに関する役割
第14週	人間と動物の関わりにおける、人間と動物の相互効果 心理的効果・生理的、身体的効果、社会的効果
第15週	人間と動物の関わりにおける、人間と動物の相互効果 心理的効果・生理的、身体的効果、社会的効果
第16週	まとめ
第17週	期末試験

3．履修上の注意

4．使用教材（テキスト等）

パワーポイント等による作成資料　その他

5．単位認定評価方法

評価基準：相対評価

出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度（積極性等）10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う
6．その他
講師：動物病院での動物看護師としての実務経験者

A4用紙で作成し最大２ページまでとする。

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	上條、得地	
科目名	コンパニオンアニマルケア実習		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習		2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	基本的な犬体チェック(バイタルチェック、身体各部の健康チェック等)を　始めとし、動物の保定法や簡易的な検査(尿検査・糞便検査等)及び検体の取扱いを習得する。 また、動物の緊急時に然るべき対応が取れるよう、救急救命の心得を学ぶ。
◆概要	基本的な犬体チェックや保定法、尿検査・糞便検査等簡易的な検査、緊急時の救命処置等の説明と実践を行う。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	犬体チェック(バイタルチェック、身体検査)、 動物の保定法
第2週	
第3週	
第4週	
第5週	尿検査概論 正常な尿と異常な尿の違い 採尿法 検体の取り扱い 尿検査 顕微鏡の扱い方
第6週	
第7週	
第8週	
第9週	前期中間試験
第10週	糞便検査概論 正常な糞便と異常な糞便の違い 採便法 検体の取り扱い 糞便検査 顕微鏡の扱い方
第11週	
第12週	
第13週	
第14週	
第15週	救急救命関連
第16週	
第17週	前期期末試験

3．履修上の注意

ユニフォームをきちんとした形で着用し、靴は清潔なものを用意すること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
髪型、化粧が適切でない場合は出席を認めない。
挨拶、返事は意識してきちんと行うこと。
生体を 扱う場合にはその状態・状況に配慮を怠らないこと。
学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具を扱うこと。
グループでの作業が多いため一人一人が責任を持って行動をすること

4．使用教材（テキスト等）

補助プリント、めざせ早期発見！わかる犬の病気

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出欠席数10%、 試験点数70%、 授業態度(積極性、課題提出)20%

6. その他

講師：動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院での経験を活かし、手技に関するコツや知識、体験談などを加えた授業を行う。

それぞれの項目で学生自らが記入することで理解が深まるような資料を作成し、それを基に授業を展開していく。

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村	
科目名	グルーミング実習応用1		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数（予定）	30コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	様々な性格の犬のグルーミングの仕方について考えながら施術する。 一人で一頭を100分でグルーミングすることができる。 様々な犬種のグルーミングができる。 犬に負担のない保定、扱いができる。
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、より飼主様に寄り添った接客を目指し、即戦力になる人材を目指す。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	グルーミング実習
第2週	グルーミング実習
第3週	グルーミング実習
第4週	グルーミング実習
第5週	グルーミング実習
第6週	グルーミング実習
第7週	グルーミング実習
第8週	グルーミング実習
第9週	中間試験
第10週	グルーミング実習
第11週	グルーミング実習
第12週	グルーミング実習
第13週	グルーミング実習
第14週	グルーミング実習
第15週	グルーミング実習
第16週	グルーミング実習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出席による評価　20%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・技術的評価（接客・トリミング）　60%

6. その他

講師：トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。
講師：動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村	
科目名	グルーミング実習応用2		必修・選択	選択	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数（予定）	30コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	様々な性格の犬のグルーミングの仕方について考えながら施術する。 一人で一頭を100分でグルーミングすることができる。 様々な犬種のグルーミングができる。 犬に負担のない保定、扱いができる。
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、より飼主様に寄り添った接客を目指し、即戦力になる人材を目指す。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	グルーミング実習
第2週	グルーミング実習
第3週	グルーミング実習
第4週	グルーミング実習
第5週	グルーミング実習
第6週	グルーミング実習
第7週	グルーミング実習
第8週	グルーミング実習
第9週	中間試験
第10週	グルーミング実習
第11週	グルーミング実習
第12週	グルーミング実習
第13週	グルーミング実習
第14週	グルーミング実習
第15週	グルーミング実習
第16週	グルーミング実習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出席による評価　20%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・技術的評価（接客・トリミング）　60%

6. その他

講師：トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。
講師：動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村	
科目名	動物美容実習応用1		必修・選択	選択	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数（予定）	60コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	サロントリマー検定1級合格に向けて、道具や犬の扱い方、カット技術を確実なものにしていくために、先生のチェックは1発OKを貰い一人で仕上げることを目指す。 2年次では、自ら考え自ら行動をすることを心掛け、就職活動での内定取得に繋げる。
◆概要	グルーミングの必要性と目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	トリミング実習
第2週	トリミング実習
第3週	トリミング実習
第4週	トリミング実習
第5週	トリミング実習
第6週	トリミング実習
第7週	トリミング実習
第8週	トリミング実習
第9週	中間試験
第10週	トリミング実習
第11週	トリミング実習
第12週	トリミング実習
第13週	トリミング実習
第14週	トリミング実習
第15週	トリミング実習
第16週	トリミング実習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。
実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出席による評価　20%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・技術的評価（接客・トリミング）　60%

6．その他

講師：JAHTAが認定するDGS（ドッググルーミングスペシャリスト）として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

学科コード	U2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林	
科目名	動物業界研究1		必修・選択	選択	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	動物業界における自身の考えや行動をどう生かしていけるか、また何を習得していかなければならないのか、情報収集し理解を深めていく。
◆概要	自身の希望進路以外の業種においても、動物との関わり方を調べ今後に活かす。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	動物業界で働くための心得（マインドセット）
第2週	
第3週	様々な職場のリサーチ（飼育動物の種類、飼育環境、展示の工夫など）
第4週	
第5週	
第6週	
第7週	
第8週	
第9週	中間試験
第10週	様々な職場のリサーチ（飼育動物の種類、飼育環境、展示の工夫など）
第11週	
第12週	
第13週	
第14週	
第15週	
第16週	
第17週	

3．履修上の注意

4．使用教材（テキスト等）

ノートパソコン

5. 単位認定評価方法
評価基準:絶対評価 ・出席による評価　20%　・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30% ・レポート成果　50%
6. その他

学科コード	U2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林	
科目名	動物業界研究2		必修・選択	選択	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	動物業界における自身の考えや行動をどう生かしていけるか、また何を習得していかなければならないのか、情報収集し理解を深めていく。
◆概要	自身の希望進路以外の業種においても、動物との関わり方を調べ今後に活かす。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週 ～ 第17週	自身が活躍するための調査・学習・まとめ

3．履修上の注意

4．使用教材（テキスト等）

ノートパソコン

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　20%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30%
・論文発表　50%

6．その他

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス				学科コード	U2
学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	腰原	
科目名	比較動物学Ⅰ		必修・選択（注記）	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　比較動物学
様々な家畜の生態や疾病の基本を学び、日本の畜産業の現状を知る事を目標とする。

◆概要　産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業などの社会との関わりについて学ぶ。
実験動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物との関わりについて学ぶ。
産業動物における動物福祉について学ぶ。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	産業動物の基礎概論
第2週	牛の歴史と品種、特徴
第3週	
第4週	
第5週	馬の歴史と品種、特徴
第6週	
第7週	豚の歴史と品種、特徴
第8週	
第9週	羊・山羊の歴史と品種、特徴
第10週	
第11週	中間試験
第12週	鶏の歴史と品種、特徴
第13週	
第14週	産業動物の疾病と繁生理
第15週	
第16週	畜産業の現状と未来
第17週	評価試験

3．履修上の注意

・事後学習として授業の復習を必ず行う事。

4．使用教材（テキスト等）

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻（EDUEARD Press）
パワーポイント

5．単位認定評価方法

評価基準：相対評価
出席状況、授業態度、中間・期末試験結果を総合して評価する

6．その他

講師：動物病院（小動物診療・大動物診療）における獣医師としての実務経験を活かし、産業動物の飼養管理と健康管理、予防医療を中心とした大動物診療について指導する。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林　和愛	
科目名	動物美容学3		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	グルーマー（トリマー）としての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。トリミングは技術だけではなく、カット方法やトリミング用語等の知識が必要。それらを習得し、トリミング実習・就職先で学んだことを活用し、トリミングの際に迷わず作業ができることを目指す。また、飼い主さんや同僚とのコミュニケーションなどについても学ぶ。
◆概要	様々な犬種のペットカット、お客様対応など、実際の現場で即戦力になる為の、知識を得る

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	顔カットについて
第2週	
第3週	犬種解説（シュナウザー）
第4週	
第5週	
第6週	犬種解説（Ａコッカー）
第7週	
第8週	中間試験
第9週	スピードトリミングとは？
第10週	サロンの１日
第11週	毛玉の話
第12週	犬種解説ダックスフント
第13週	犬種解説ポメラニアン
第14週	
第15週	犬種解説（シーズー・マルチーズ）
第16週	
第17週	期末試験

3．履修上の注意

講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。

4．使用教材（テキスト等）

ドッグ・グルーマーズ　プロフェッショナル・ワークブック
ドッググルーミングブック
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・中間・期末試験　70%

6. その他

講師：JAHTAが認定するDGS（ドッググルーミングスペシャリスト）として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林	
科目名	総合実習3（研究）		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	ペットライフケア学科業界に関する知識を深める。 中間試験、期末試験に研究したテーマについての発表を行う。 「調べる」「研究する」「理解をする」「人に伝える」という仕事していくうえで、必要なスキルも身に着け
◆概要	卒業論文の制作。パワーポイントを使用してのプレゼンテーション。動物に関する疑問や興味を持ったことについて研究を行い、研究テーマの内容によって必要であれば、制作物を作る。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	水槽の管理について
第2週	論文の書き方
第3週	卒業研究テーマ決め・グループ決め
第4週	
第5週	研究スケジュール作成
第6週	予備調査、予備研究、論文
第7週	
第8週	
第9週	経過報告
第10週	研究、論文
第11週	
第12週	
第13週	
第14週	
第15週	
第16週	
第17週	経過報告

3．履修上の注意

インターネット上だけの調査だけではなく、現場に足を運んだり、結果を実際に自分の目で確認するなど、調査方法を確認する事。授業中は論文制作に勤しむこと。課題提出期限が設けられているため、期限は厳守する事。授業時間内で、研究や論文作成が間に合わない場合、授業時間外を使って完成させなくてはいけないこともある。前期期間中に研究テーマを一人一テーマを決定しておく。場合によってはグループ制の研究を行う可能性があるが、その場合のグループ編成は教員が判断するものとする。

4．使用教材（テキスト等）

ノートパソコン

5. 単位認定評価方法
評価基準:絶対評価 ・出席による評価　20%　・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30% ・論文発表　50%
6. その他

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	福澤・小林・山﨑・竹村・得地	
科目名	卒業研究・制作		必修・選択	選択必修	
単位数	4単位	授業形態	研究・制作	年次	2年次
総授業数（予定）	68コマ	授業場所	HR教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　ペット業界に関する知識を深める。
中間試験（11月）・期末試験（2月）に研究したテーマについての発表を行う。
「調べる」・「研究する」・「理解をする」・「人に伝える」という仕事をしていく上で必要なスキルも身につける。

◆概要　卒業論文の制作。パワーポイントを使用してのプレゼンテーション。
動物に関する疑問や興味を持ったことについて研究を行い、研究テーマの内容によって必要であれば制作物を作る。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	本論作成（研究制作）
第2週	
第3週	
第4週	
第5週	
第6週	
第7週	中間発表用パワーポイントの作成/練習
第8週	
第9週	
第10週	中間発表 本論作成（研究・制作）
第11週	本論作成（研究制作）
第12週	本論作成（研究制作）
第13週	本論作成（研究制作） 結論/要旨作成
第14週	結論/要旨作成 目次作成
第15週	最終発表パワーポイント作成 最終発表練習
第16週	最終発表練習

第17週	最終発表練習 卒業研究・制作発表会

3. 履修上の注意

インターネット上だけの調査ではなく、現場に足を運んだり、結果を実際に自分の目で確認するなど調査方法を工夫すること。授業中は論文作成に勤しむこと。課題提出期限が設けられているため、期限は厳守すること。授業時間内で研究や論文作成が間に合わない場合、授業時間外を使って完成させなくてはいけないこともある。
前期期間中に研究テーマを1人1テーマ決定しておく。場合によってはグループ制の研究を行う可能性があるが、その場合のグループ編成は教員が判断するものとする。

4. 使用教材(テキスト等)

ノートパソコン

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

・出席による評価　20%　・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)　30%

・論文発表(中間・期末)　50%

6. その他

中間発表会:11月中間試験週
最終発表会:2月期末試験週

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林和愛	
科目名	動物美容学4		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標	グルーマー（トリマー）としての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。トリミングは技術だけではなく、カット方法やトリミング用語等の知識が必要。それらを習得し、トリミング実習・就職先で学んだことを活用し、トリミングの際に迷わず作業ができることを目指す。また、飼い主さんや同僚とのコミュニケーションなどについても学ぶ。
◆概要	トリマー検定１級に向けてカットの復習や筆記試験対策を行う。

2. 授業内容 （週単位で記入）

第1週	犬種解説パピヨン
第2週	犬種解説ビション・フリーゼ
第3週	犬種解説ＭＩＸ
第4週	犬種解説チワワ
第5週	犬種解説柴・日本犬
第6週	パピーのグルーミング
第7週	猫のグルーミング
第8週	クレーム対応
第9週	中間試験
第10週	マナー接遇
第11週	
第12週	
第13週	検定対策
第14週	
第15週	
第16週	
第17週	サロントリマー1級検定　（筆記）

3. 履修上の注意

講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。

4. 使用教材（テキスト等）

ドッグ・グルーマーズ　プロフェッショナル・ワークブック
ドッググルーミングブック
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・中間・期末試験　70%

6. その他

講師：JAHTAが認定するDGS（ドッググルーミングスペシャリスト）として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

学科コード	U2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科(DT専攻)		担当者	上條 紗泰雅	
科目名	動物繁殖学		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標	犬猫の雌雄の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学び、正常な分娩の前兆、生理的変化と以上分娩における助産、新生子管理や雌雄の生殖器の疾患への理解とその看護について学ぶ。
◆概要	繁殖に関わる形態機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を学び習得する

2. 授業内容 (週単位で記入)

第1週	犬猫の繁殖整理 生殖器の形態と機能 雌雄の生殖器(構造・機能・生理)
第2週	
第3週	
第4週	性成熟と生殖周期 月齢・妊娠期間・季節周期・完全生殖周期・不完全生殖周期
第5週	発情徴候、排卵、受胎可能な交配時期
第6週	犬の繁殖 交配・妊娠(着床・胎盤)・分娩(徴候・経過)・出産(準備・母体の看護・産後の看護)
第7週	
第8週	
第9週	中間試験
第10週	犬の出産 帝王切開 困難な出産・繁殖問題
第11週	
第12週	
第13週	新生子管理 母犬の管理(準備・母体の看護・産後の看護) 授乳 (人口授乳・人口的な管理)
第14週	
第15週	
第16週	登録 血統書
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

教科書だけではなく、イラストや写真、その他資料を使いながら行っていく。
生殖器の構造をはじめとして覚えることが多数あるため、事後学習を怠らないように努める。

4. 使用教材(テキスト等)

予備資料

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価
・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20% ・中間、期末試験70%

6. その他

講師：動物病院での動物看護師としての実務経験者
教科書に載っていることだけでなく、現場での経験を生かした授業を展開していく。
講義がメインとなるが、検査や助産に立ち会う場面での立ち振る舞いなども指導していく。

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	山﨑	
科目名	動物飼養管理学5		必修・選択	選択	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　実習における自身の課題の追求、動物業界に貢献し得る実習や研究を通し、業界就職に役立つ知識、技術を身につける。

◆概要　グループワークでの知識習得、および研究テーマ等の決定、調査・探求・実験（製作の場合もある）。データ制作。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	実習・調査・研究
第2週	実習・調査・研究
第3週	実習・調査・研究
第4週	実習・調査・研究
第5週	実習・調査・研究
第6週	実習・調査・研究
第7週	実習・調査・研究
第8週	実習・調査・研究
第9週	実習・調査・研究
第10週	実習・調査・研究・データ制作
第11週	実習・調査・研究・データ制作
第12週	実習・調査・研究・データ制作
第13週	実習・調査・研究・データ制作
第14週	実習・調査・研究・データ制作
第15週	実習・調査・研究・データ制作
第16週	実習・調査・研究・データ制作
第17週	期末報告

3．履修上の注意

内容、進度により各自対応は異なる場合がある。

4．使用教材（テキスト等）

参考図書等　その他

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

出欠席数10%、授業態度（積極性等）10%、課題提出状況10%、研究成果50%、研究発表評価等20%
をもって評価とする。

6．その他

学科コード	T2U2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村	
科目名	グルーミング実習応用3		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数（予定）	30コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	様々な性格の犬のグルーミングの仕方について考えながら施術する。 一人で一頭を100分でグルーミングすることができる。 様々な犬種のグルーミングができる。 犬に負担のない保定、扱いができる。
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、より飼主様に寄り添った接客を目指し、即戦力になる人材を目指す。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	グルーミング実習
第2週	グルーミング実習
第3週	グルーミング実習
第4週	グルーミング実習
第5週	グルーミング実習
第6週	グルーミング実習
第7週	グルーミング実習
第8週	グルーミング実習
第9週	中間試験
第10週	グルーミング実習
第11週	グルーミング実習
第12週	グルーミング実習
第13週	グルーミング実習
第14週	グルーミング実習
第15週	グルーミング実習
第16週	グルーミング実習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出席による評価　20%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・技術的評価（接客・トリミング）　60%

6. その他

講師：トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。
講師：動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村	
科目名	グルーミング実習応用4		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数（予定）	30コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	様々な性格の犬のグルーミングの仕方について考えながら施術する。 一人で一頭を100分でグルーミングすることができる。 様々な犬種のグルーミングができる。 犬に負担のない保定、扱いができる。
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、より飼主様に寄り添った接客を目指し、即戦力になる人材を目指す。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	グルーミング実習
第2週	グルーミング実習
第3週	グルーミング実習
第4週	グルーミング実習
第5週	グルーミング実習
第6週	グルーミング実習
第7週	グルーミング実習
第8週	グルーミング実習
第9週	中間試験
第10週	グルーミング実習
第11週	グルーミング実習
第12週	グルーミング実習
第13週	グルーミング実習
第14週	グルーミング実習
第15週	グルーミング実習
第16週	グルーミング実習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出席による評価　20%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・技術的評価（接客・トリミング）　60%

6. その他

講師：トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。
講師：動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村	
科目名	動物美容実習応用2		必修・選択	選択	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数（予定）	60コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	サロントリマー検定1級合格に向けて、道具や犬の扱い方、カット技術を確実なものにしていくために、先生のチェックは1発OKを貰い一人で仕上げることを目指す。 2年次では、自ら考え自ら行動をすることを心掛け、就職活動での内定取得に繋げる。
◆概要	グルーミングの必要性と目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	トリミング実習
第2週	トリミング実習
第3週	トリミング実習
第4週	トリミング実習
第5週	トリミング実習
第6週	トリミング実習
第7週	トリミング実習
第8週	トリミング実習
第9週	中間試験
第10週	トリミング実習
第11週	サロントリマー1級資格試験 トリミング実習
第12週	トリミング実習
第13週	トリミング実習
第14週	トリミング実習
第15週	トリミング実習
第16週	トリミング実習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。
実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価
・出席による評価　20%　・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
・技術的評価(接客・トリミング)　60%

6. その他

講師:JAHTAが認定するDGS(ドッググルーミングスペシャリスト)として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

学科コード	U2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村 福澤	
科目名	ドッグトレーニング応用1		必修・選択	必修	
単位数	3単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	45コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要	
◆到達目標	犬と飼い主の理想的な関係構築のため科学に基づくトレーニング方法を理解し、実行できるようになるとともに、犬を取り巻く環境について常に配慮し適切にコントロールを行えるようになる。 飼い主に対する効果的なインストラクションができるようになる。 問題行動への考え方、対処法について実践できるようになる。
◆概要	学習理論の深い理解と、科学に基づくトレーニングについて実践を積む。 インストラクターとしての立ち居振る舞いや傾聴姿勢と技術、インストラクションスキルの習得のための経験を積む。 問題行動に悩む飼い主への対応、トレーニング後術について習得する。

2．授業内容 （週単位で記入）	
第1週	インストラクターとして必要な技術の実践 学習理論
第2週	インストラクターとして必要な技術の実践 学習理論
第3週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座
第4週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用：トイレ
第5週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用：クレート
第6週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座
第7週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用：社会化
第8週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用：遊び
第9週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用：甘咬み
第10週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座
第11週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論
第12週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論
第13週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論
第14週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第15週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論

第16週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第17週	期末試験

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと

4．使用教材（テキスト等）

犬と猫の問題行動の予防と対応
犬のしつけ学

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30%
・中間・期末試験　60%

6．その他

講師：JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

学科コード	U2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村 福澤	
科目名	ドッグトレーニング応用2		必修・選択	必修	
単位数	3単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	45コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	犬と飼い主の理想的な関係構築のため科学に基づくトレーニング方法を理解し、実行できるようになるとともに、犬を取り巻く環境について常に配慮し適切にコントロールを行えるようになる。 飼い主に対する効果的なインストラクションができるようになる。 問題行動への考え方、対処法について実践できるようになる。
◆概要	学習理論の深い理解と、科学に基づくトレーニングについて実践を積む。 インストラクターとしての立ち居振る舞いや傾聴姿勢と技術、インストラクションスキルの習得のための経験を積む。 問題行動に悩む飼い主への対応、トレーニング後術について習得する。

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第2週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第3週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第4週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第5週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第6週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第7週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第8週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第9週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第10週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第11週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第12週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第13週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第14週	インストラクターとして必要な技術と実践・社会貢献
第15週	インストラクターとして必要な技術と実践・社会貢献

第16週	インストラクターとして必要な技術と実践・社会貢献
第17週	期末試験

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材（テキスト等）

動物看護コアテキスト4巻
犬のしつけ学

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30%
・中間・期末試験　60%

6. その他

講師：JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。